

風の階段 踏みしめて ~ 自己実現へ向かう道 ~



第32号 平成24年12月13日(木)発行

「素直な心」... ~ 元 広島・阪神の金本 知憲さんのTVインタビューから~

あるテレビ番組で、鉄人 金本 元選手の特集を行っていた。アナウンサーが、しきりに、職人気質の彼の真意を聞き出そうと躍起になり、我々でも学ぶべきポイントを挙げてもらっていた。

金本さんは、己の身体について、元来線が細いことから、体幹を太くし鍛えるためにウエートトレーニングを継続したことや、護摩業*1 という修行にもふれて、苦しかった体験を語った。曰く、「護摩業といっても、単にそれに参加するだけでは、何の成果も得られません。」

「オフシーズンのお話ですが、シーズン中の反省点を自覚し、これから具体的に、いつまで、どんなことをどのように改善していくのか、といった『意識』ことが重要ですね。」

「単に参加しに行こう、例年のことだから今年も行こう、という程度の意識であった年は、やはり次年度も失敗でした。」とのこと。

鉄人の重い言葉である。苦勞した人の言葉は、これほどまでに説得力があるのだと思わせる。

引退会見では、「苦しみが大部分で8割、喜びはせいぜい2割」と言っていたのを思い出す。人生たるや、その大部分が苦勞であった、艱難辛苦とは何ぞや、と一度言ってみたいものだ。

ちなみに、金本さんも、本来はいわゆる「三日坊主」で、継続性のない人間と自らを評した。ただ、「これぞ」と決めたことは、やり遂げ、計画上休んだことは皆無、とのことであった。

さて、前置きが長くなったが、標題について、人生の教訓として次の3点を挙げていた。

- 1 信じて突き通す心 (念願は人格を決定する、ごとく、まずは念願、信念か)
2 「素直な心」 (周囲の意見を聞き入れ、取り入れる柔軟さ、ということだろう)
3 継続は力なり (1と「念願」のセットの言葉。「念願」あつての「継続」である。)

私は、あえて2番目に「素直な心」を置くことに教訓を得た。継続性を自らの独善ではなく、他からの助言を得て、潤滑に全うしうるものとして捉え、あえて真ん中に「素直な心」を置いた彼の考え方に敬服したのだ。

ただ、なにはともあれ、彼はホームランバッターになりたかったのだろう、とも思った。歴代10位である。



年末が迫った。...「去年(ごぞ)今年 貫く棒のごときもの」(高浜虚子)...である。強い信念を持って、精神性豊かに、受験期を乗り切りたい。

センター試験まであと37日(みなのかん闘を祈るのみ!!)

*1 護摩の炉に細長く切った薪木を入れて燃やし、炉中に種々の供物を投げ入れ(護摩焚き)、火の神が煙とともに供物を天上に運び、天の恩寵にあずかろうとする素朴な信仰から生まれたものである。火の中を清浄の場として仏を観相する。

2012年度シーズン終了現在と順位 (選手/本塁打/実働期間/試合/打数 の順)

Table with 2 columns of player statistics including names, years, and statistics. Includes players like 王 貞治, 野村 克也, etc.